

# JICA東京 PROFILE

2020年7月～2022年1月

2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、JICA東京の事業に大きな変更が生じております。本リーフレットでは、withコロナの様々な取組の中から一部をご紹介します。

## 「会えなくても続く『共創』の場」

コロナ禍になり、来日が難しくなったなか、関係機関の協力を得て、遠隔研修の実施をしています。遠隔研修が始まった2020年度から2021年度上半期までに、合わせて約150件の研修を実施しています。

遠隔研修は、オンラインでの講義や討議、オンデマンド教材の配信の組み合わせで実施しています。また、センター内にオンライン講義配信のため、機材を整えた簡易スタジオを作りました。写真上はその様子です。画面右手のスクリーンに遠隔地の講師が写っています。写真中央はスタジオから配信するためのカメラです。

遠隔研修の実施にあたり、大きな課題は時差と通信環境でした。研修の実施時間を日本の夕方や早朝に設定したり、接続できなかった人は講義動画を後から見て、質問をメールでやりとりできるようにしたりするなど、各国の事情を踏まえたきめ細やかな対応をしています。

遠隔研修は実際に見学したり、物に触れたりすることはできませんが、動画を介して研修員達は日本の様々な経験を学んでいます。写真下は、2021年度課題別研修「REDD+実施に向けた政策立案（行政幹部職員向け）」の遠隔研修の一コマで、北海道下川町の森林保全の経験を共有する谷一之町長（写真中央）と研修員の様子です。遠隔研修は、これまで家庭や職場の都合で、日本への長期間の海外出張が難しかった人や、定員にしばらくらずに希望者を受け入れることができるなどの利点もあります。

直接会えなくても、「共創」を続けています。



## 高崎分室を開所しました！

JICA東京は2021（令和3）年10月、群馬県高崎市に高崎分室を開所しました。

高崎分室は群馬県での民間連携事業や外国人受入支援事業を中心に事業紹介や相談受付を担当しています。JICA事業を県内の皆さまに知ってもらい、活用いただけるよう、県内各地域に出向いて周知活動を行っていますが、皆さまのご来訪も心よりお待ちしておりますので、お気軽にご連絡ください。

### JICA東京 高崎分室

〒370-0849

群馬県高崎市八島町222番地 高崎モントレイ2階（高崎駅ビル内）

電話番号：027-388-8023



# コロナ禍における草の根技術協力事業の挑戦

新型コロナウイルス感染症は世界中に大きな変化をもたらしました。現地で人々に寄り添い、きめ細かな支援を行うことが特徴の草の根技術協力事業も多大な影響を受けていますが、コロナ禍に負けず、支援を止めないような様々な工夫が行われています。

## いつでも、誰でも、オンラインで学ぶ

2018年からラオスで実施中の「木工職業教育校におけるトレーナーの技術向上プロジェクト」。家具職人などの日本人専門家が現地の職業教育校を訪問し、木工家具製作技術と指導力向上のための教員研修を実施してきました。しかし、感染拡大の影響を受け、各地の職業教育校での活動が難しくなっていました。

そこで実地指導の代わりにと考案したのが動画によるオンライン講座です。木工家具などを作るための技術を伝える指導動画をシリーズで制作し、完成した動画はYouTubeに掲載。職業教育校の教員だけでなく、誰でも好きな時に動画にアクセスし、学生や木工技術を学びたい人々などより幅広い人たちが学べるようになりました。また、木工技術書や家具の図面をダウンロードできるようにHPも制作。指導を受ける機会が少ない地方の教員でも、オンライン教材を使ってより良い指導ができるような仕組みづくりに取り組んでいます。



指導動画の一場面

(実施団体：特定非営利活動法人国際協力 NGO・IV-JAPAN)

## サリーと女性たちの力でコロナ禍を乗り切る

2015～2018年に実施されていた「内戦復興における女性のエンパワメントーサリー・リサイクル事業」。スリランカ北部の漁村地域で経済的に困窮した生活を送る女性たちの生計向上を目指し、民族衣装サリーをリサイクルしたエコバッグなどの縫製品の製作・販売の支援を実施、女性たちの社会参加にもつながりました。

しかし、2019年に発生したテロ事件以降観光客が減ってしまい、古着サリー製品の販売数も減少。さらに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、感染予防の観点から古着の寄付数も減り、製品制作自体が難しくなっていました。そこで、女性たちのさらなる技術向上のための縫製技術強化研修を実施するとともに、コロナ禍のマーケットニーズに対応するため、販売経験のある現地の店を対象に市場調査も実施。回収が難しくなった古着サリーの使用量を減らし、サリーと綿布を組み合わせた新製品も開発しました。



サリーをリサイクルしたバッグ

(実施団体：特定非営利活動法人パルシッパ)